

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/8299>

出版情報: 「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 1, pp.1-116, 2005-04. AQUA事務局

バージョン:

権利関係:

1. はじめに

2002年、サッカーワールドカップが日本と韓国の共同開催で行われたことはまだ記憶に新しいと思います。この大会は日本と韓国の友好関係を大きく前進させた点においてまさに画期的でした。しかし一般にはあまり知られていませんが、その年にもう一つ、日韓両国にとって大きな出来事がありました。それは釜山と福岡の間に超高速のインターネットが開通したことです。この海底光ケーブルの完成により日韓両国は大容量の回線を利用して太いパイプで直接情報交換が出来るようになり、通信の世界における国際交流が格段に推進されることになりました。九州大学は両国の産官学と協力して「玄海プロジェクト」と呼ばれる共同体を組織し、教育・文化・ビジネス・観光などあらゆる分野で情報通信の側面からの交流促進を目指してきました。医療チームもこの年の11月、このプロジェクトに正式に参画しました。

医療チームの参加は、偶然が重なった幸運と言えます。まず玄海プロジェクトの韓国側代表メンバーであった漢陽大学に、医療チームの友人がいたことです。このことが契機となり第1回目のイベントは九大病院と漢陽大学との間で2003年2月に行われました。また2002年12月に福岡で行われた外科系の研究会にたまたま韓国から3名の医師をお招きして講演をいただいたことでこれらの医療機関とも交流が始まり、この3名はいずれも現在医療チームの主要メンバーになっています。

一方、医療コンテンツはこの高速回線を利用したプロジェクトに最も適していると思われれます。従来の低容量回線で行われてきた遠隔医療と異なり、画像の転送に伴った画質の劣化がないため、オリジナルな画像と全く同じ解像度の画像を遠隔地でも観察することが可能です。そのため正確な診断に必要な細かな解剖や色彩の僅かな変化を捉えることが出来、臨床応用のみならず、遠隔地への高度な医療教育にも有用です。

我々はこの2年間に当初の予定を上回る活発な活動を行い、多くの実績を得ることができました。今後もさらに新しい技術を取り入れてより使いやすいものを提供していく必要がありますが、我々のこれまでの活動記録の整理と興味ある方々への参考になればという思いから、ここに報告書を作成することと致しました。また今後はこれら高速ネットワークを介して九州からアジアへより多くの医療情報を発信することを目指し、組織名を「AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)」と命名し、ここに新たな枠組みで活動を開始することとなりました。

本年は日韓国交正常化40周年という記念すべき年です。今後も両国の友好関係がより一層深くなることを願うとともに、我々のプロジェクトが日韓を越えアジア太平洋地域全体へ展開していくことを強く望んでいます。

平成17年4月
九州大学病院 光学医療診療部
清水周次